

平成30年度第1回佐倉市産業振興推進会議 議事録(要録)

日時:平成31年3月22日(金) 13時~15時30分

会場:佐倉市役所1号館3階会議室

出席委員	野口委員長、鈴木副委員長、田川委員、小川委員、市川委員、岩淵委員、羽根井委員、坂口委員、山崎委員、坂本委員、三橋委員 (欠席:市原委員)
事務局	二川産業振興部長(農政課)岩井課長、足谷班長(産業振興課)鈴木課長、荒木班長、大川主査、塚田主任主事、利光班長、向後主任主事
傍聴者	なし

開会

1. 産業振興部長あいさつ

2. 委員紹介

委員本人による自己紹介

3. 議題 次期 産業振興ビジョン策定に向けた現状と課題の整理について

【商工業】⇒ 事務局から現状の課題についての資料説明

A委員

今回の資料は、現状に基づいた課題をまとめたものだと思うが、我々は12年後のビジョンを取りまとめなければならない。今の課題が、果たして12年後まで残っているのだろうか。目先の課題だけにこだわらず、課題を整理しながら対応していく必要があるように思う。

→B委員

12年サイクルというのは決まっているものなのか。

→事務局

現在市では、第5次佐倉市総合計画を策定中であるが、この上位計画の計画期間が12年であることから、これに合わせる形となっている。

→B委員

アンケートは何社に送付したか。

→事務局

約2,000事業者に送付し、そのうち476事業者から回答があった。

C委員

商店街に空き店舗が多いが、空き店舗バンク的なものはないか。外部から人が入っていくための情報を開示している仕組みはないか。

→事務局

空き店舗バンクはない。まず情報を収集する必要がある。空き店舗の家主、後継者の有無、賃貸借に対する意向等の情報を整理しないといけないという問題認識をもっている。

新たなビジョンの中で、空き店舗バンクも具体的な方策になると思う。

→D委員

空き店舗の状況について、ある程度の把握はしているか。

→事務局

1年に1度、産業振興課職員が商店街ごとに分かれて、目視による調査を行っている。借りたい人はいるが家主に貸し出す意向がなかったり、逆に貸したいけれどオファーがなかったり…という、マッチングがうまく出来ていない状況がある。次期ビジョンにおいても取り組んでいく必要があると感じている。

→事務局

県内の自治体で、空き店舗バンクをもっている市町村はあるか。

→E委員

以前から、商工会や商工会議所などが発行する冊子などで載せているところはあった。県内自治体で空き店舗情報を載せているところもあった。

→F委員

市の「商店街空き店舗等出店促進補助金」の対象地域が狭く、空き店舗であっても、そこが補助金の対象ではないエリアだったりする。

→事務局

同補助金は、今まで、対象エリア・業種が縛られていたが、次年度から対象エリア・業種の制限をなくした。広い形で事業者を呼び込める制度にしたい。

→G委員

空き店舗情報を持っているのは不動産屋である。不動産屋が情報を得ることによって、空き店舗が埋まる可能性が増える。

日本の商店は、生活の中の店舗である。そこにトイレ・洗面所があり、売り場もある。その店舗を貸す場合には、何百万円もかけて改修を行う必要があるため、月2～3万円の家賃では割に合わない。

→D委員

貸す側に生活空間がある場合には難しいということ。

H委員

課題に「人材の不足」が挙げられているが、定年後の第二の人生を歩んでいる仲間は、「何か仕事があればやりたい」と言っている。ということは、何かミスマッチが生じているのではないか。これを解消することにより、不足している人材をうまく活用できるのではないか。かなり能力のある人もいて、もったいない。ミスマッチが生じている原因は分からないが、解消

できる仕組みがあればよい。

→D委員

人手不足は深刻で、ハローワークへ行っても人がなかなか集まらない。一方で、高齢者の中には、かなりのキャリアの方もおり、能力的にも高いものを持っておられる。行政の考えはどうか。

→事務局

委員ご指摘の通り、マッチングが出来ていない状況。今、検討しているのがシルバー人材センターの活用である。シルバーというと、草刈、庭木の剪定といったイメージがあるかもしれないが、登録されている人の中には一流企業にお勤めしていた方もいる。先ほどの空き店舗バンクのように、「高齢者人材バンク」として、こうした人材を求めているという情報を集約し、シルバー人材センターを活用したマッチングが出来れば…と考えている。

→E委員

千葉県産業振興センターでは、平成27年12月から内閣府の仕事で「プロフェッショナル人材戦略拠点事業」を行っている。この事業は、中小企業の片腕になるような能力を持った人材のマッチング。佐倉市内の企業でも成功事例がある(ホソヤコーポレーション)。

また、「ジョブカフェちば」という若者の就職支援も行っている。厚労省の調査によると、3人に1人が採用から3年以内に離職している。大企業を希望している人が多く、なかなか中小企業には目が向いていない。我々は手をこまねいている訳にはいかないので、まずは中小企業の魅力を発信することに力を入れている。

国が一番力を入れているのが事業承継。中小企業はタブー視する案件でもあるので、まずは気づきから。1～2年で解決できる問題ではないので、専門人材を置き活動をしている。

→事務局

事業承継等のセミナーや相談会を、よろず支援拠点のようにサテライトで佐倉市内での開催をお願いしたい。

I委員

私は、商工会議所が行う創業セミナーに関わっており、個人の方が企業組合という形で行うグループ創業の支援をしている。他自治体での例になるが、女性の方達が、高齢者のお家を掃除したり、草刈をしたりするという創業を支援したことがある。女性の創業には、家族の支援が必要。家族に協力をお願いすると、協力を得られやすい。

G委員

昨日、商店会内の飲食店で食事をし、20人くらいが待っていた。そうすると、待っている人に「他に食事をする所は無いか」と聞かれたが、現実にお店がない状況。

商店街の役割を問い直す必要がある。商店街のあり方、役割について、地域住民が何を求めているのか。それに対し我々はどのように答えていくべきなのか、その辺を見直していかね

ばならない。特に駅前商店街の衰退は著しい。かつては一番元気だったが。

→A委員

課題は課題としてとどめておき、議論の中であるべき姿を描きながら課題を整理し、ロードマップを作るなどして、今後につながるようにしていくことが重要。

【観光】 ⇒ 事務局から現状の課題についての資料説明

G委員

桜、チューリップ、花火、どれも大事なものであるが、それだけで良いのか。その経済性はどうか。

今まで通りではなく、時代に沿った変革をしていく必要があるのではないか。例えば成田の花火は、以前は沼のそばでやっていたのを街中に会場を移した。それによってアクセスが大幅に良くなった。よく変えたものである。これまでの経緯・歴史があるので、簡単には変えられないと思うが、もう少し見直し、経済性が伴うようにするための工夫が必要ではないか。

2～3 日前の新聞に千葉県が 20 万人のインバウンド客を受け入れるという記事が掲載されていたが、そのうち何人が佐倉に入るのか。佐倉には地域的な資源がいくつもあるが、それが活かされておらず、残念。行政も一生懸命やっているが、その割に人気がない。何故なのかを考える必要がある。

F委員

佐倉にはいいところが沢山あり、体験してみないと分からない。以前、「佐倉・七福神巡り」を行ったが、ほのぼのとしたいいものがあった。なんてことはないが、回ってみると佐倉らしさを感じられる。そういうものを、まずは作ってみて町の名物にしたらいいと思う。

J委員:

佐倉は観光資源がありすぎてうまく使えていないように思う。

旅行業者に診断してもらうのがよい。どのようなコースならば人が来るのか。まず、東京の皆さんに「佐倉に来てください」と言っても、佐倉のまちは観光バスが入れない。駐車するところがない。来ていただいて「食べに行きましょう」と言っても、食べに行くところがない。食は観光の三要素の一つである。

佐倉のコンセプトをどのように作るのか。長期的展望で佐倉市をどのようにしていくのか。日本遺産、江戸のイメージか。例えば「小京都」と言われる高山は、京都のテーマパークのようである。

京成佐倉駅を降りて、美術館に至る道路の沿道に空き店舗が目立つ。ユーカリが丘に「コロボサクラ」をオープンさせるようだが、京成佐倉駅前にも賑わいを取り戻して欲しい。

シティプロモーション、この言葉は結構古くからある。25年くらい前に、福岡市にシティプロモーション課があった。その前がシティセールスであった。佐倉は割と手を付けるのが早いよう

に思う。

今度の日曜に「佐倉朝日健康マラソン」がある。これには毎年1万2千人くらいが参加している。しかも8割が市外の方であり、PRに絶好の場だが、活かせていない。京成佐倉駅・JR佐倉駅を降りても歓迎のムードがない。

例えば、山形市は前夜祭を行っている。これなら参加者はまた次回も来ようと思う。宮崎県で行われる「青島太平洋マラソン」は1万2千人くらいが参加し、経済効果は6億1千万円と聞いた。

人材では、市内には素晴らしい人達がたくさんいる。もっとボランティアを活かしたほうがよい。

印旛沼に二隻ある観光船をもっと活かしてほしい。印旛沼は佐倉の観光拠点。前に「母なる印旛沼」というワードを聞いたが、印旛沼の前に「母なる」を付けたら大分イメージが異なると思う。船も「雷電丸」「長嶋丸」などとしたら、子どもも乗りたいがるのではないかな。もう少し、資源をブラッシュアップすることを考えていただきたい。

C委員

観光協会に行くと、観光マップがいくつかあるが、佐倉市の観光名所を回る統一されたマップがなく、どれがよいのかわからない、と来街者から聞いたことがある。佐倉はどういう町なのか、歴史の町なのか、どこに比重を置くかによっても、作るマップは違ってくる。一度、整理する必要があるように思う。

また、外から見ると佐倉はお祭りが多い街であると言われる。その祭の概要や時期、場所をもっとわかりやすくPRしたほうがよい。

いろいろなイベントをやっている主催者側の、横のつながり、誰がどういうことをやっているかわからない、という話もある。みんなイベントをやっており、それぞれがノウハウを持っているので、それらを繋ぎ、イベントを主催している人達の意見をみんなで聞いてみると、面白くなるのではないかな。

G委員

「にわのわ」というイベントを是非見てもらいたい。城址公園に2万4千人くらいが来ている。同時に商店街では「まちのわ」を開催している。ものすごい人出である。やれば出来るのである。

先ほどマラソンの話が出たが、以前は新町通りのあたりまで人が歩いている状況であった。今は、信号から上に人が行かない状況である。これは魅力がないということ。何かを仕掛けていかないといけない。

H委員

ふるさと広場の観光客数は少しずつ増えている。これと比較し、草ぶえの丘は来場者数が減っている。その理由は何か。それと、年間を通して2回の波がある。おそらく5月、10月のバ

ラだと思われる。ここで新たなものを仕掛け、来場者の波をもう1つ作る必要があるのではないかと。例えば、夏に水遊びが出来るようすとか。子どもが来ると、親もついてくる。

それと、宿泊施設を地元の子供達に利用していただくようなことを考えるのが必要と思う。

→事務局

草ぶえの丘は、28年度と29年度を比較すると来場者数は減っている。これは、28年度までは指定管理で民間業者に委託をしていたが、29年度からは市の直営ということでノウハウも乏しかったこと、また、29年11月から草ぶえの丘が耐震工事に入っており、30年の3月まで休園をしていた。その為、入園者がいなかった。そうした理由によるものと思われる。

G委員

「マルシェかしま」は、レジはあらゆる決済に対応しているなど、学ぶべきところがある。一度見て欲しい。やはり民間である。民間のノウハウが大事である。観光関連の事業をやりたいというパワーのある人を行政は少しでも応援してあげるようにしたらよいのではないかと。

→事務局

今年度から観光協会との連携強化を図るために、産業振興課の職員を一人派遣している。また、産業振興課では、JTB から任期付きで職員を一人採用しており、体験型の商品作成などを手掛けていただいている。サイクルトレインなどの成果に結びついている。今後も観光行政に力を入れていく。

→事務局

観光の話題では、古民家活用がある。古民家は保存すべきという意見もあるが、産業振興の観点から活用という方向で進めていきたい。レストラン、カフェ等いろいろあると思うが、皆様の知恵をお借りしたい。

【農業】 ⇒ 事務局から現状の課題についての資料説明

K委員

市内の農業の現状として、耕作放棄地が拡大している。担い手も高齢者になっている。一方で、新規就農者も頑張っている。遠くの県に行き、苺栽培の勉強をしている方もいる。鹿島川の近くに大規模なビニールハウス立てる計画を立てている人もいる。それから耕作放棄地における太陽光パネル設置が増えている。その中に営農型太陽光発電に取り組んでいる方もおり、見に行った。その熱を利用してキクラゲを生産しており、市外の道の駅等に出荷しているとのこと。佐倉市には売り場が近くにないで困っていると言っていた。

一昨日、佐倉インター付近の高崎地区に大きな物流倉庫が出来るとということで、事前調査にいった。そこには将来、ドライブインができるとのこと。そこに道の駅は出来ないのかと尋ねたところ、駐車場の関係等の理由から出来ないと言っていた。市で、その場所以外に、道の駅の設置を考えているか。

→事務局

「道の駅」は、駐車場、24時間使えるトイレ、交通情報が取れる設備、地域コミュニティ施設、それらを総称して「道の駅」と呼ぶ。県内の道の駅は農産物販売が主なので「農産物や物産品を販売するための場所」というイメージがあるが、必ずしもそうでない。

道の駅は場所の選定が難しい。例えば住宅地のそばに作ってしまうと、24 時間大型車が止まって、エンジンをかけっぱなしとなり近所迷惑になる恐れがある。また、交通量の問題がある。八千代の道の駅は国道16号沿いでかなりの交通量があるので問題は無いが、佐倉市ではたしてそれだけの交通量のある道路があるのか。現在、庁内関係課（農政課、産業振興課、道路維持課）で勉強会を行っており、今後どのようにしたらよいか考えていく。

→J委員

道の駅は、全国に1020くらいある。いま話題になっているのが「道の駅・保田小」。廃校になった小学校を活用している。

また、今回の会議で用意されたデータ・資料ではピンとこなかったもので、佐倉の農業はどうなっているのかインターネットで調べた。佐倉の農業の実態について、もっと分かりやすいものがあるとよい。

E委員

地域資源を活用した農産物や鉱工業品など、あるいは文化財を利用したものについては支援が出来る。

他自治体での事例であるが、以前トマト農家の若い2代目がトマトジュースを作るといったときに、新商品の製造からラベルのデザインまで支援をし、今では近隣の道の駅等に出荷している。また、和菓子屋の新商品開発にあたり、フードコーディネータ派遣や、都内のデパートへの販路開拓等を支援している。専門人材がいるので利用していただきたい。

ちなみに佐倉は、千葉県指定の地域資源として、農林水産物が大体30くらいある。例えば八街産の落花生、トマト、ネギ、人参、さといも、変わったところでは、佐倉藩のにんにくなど。地域資源を使ったものであれば、農業者の方でも、農林水産業者の方でも支援できるので活用してほしい。

農林的な予算を使った農産物販売施設として、道の駅だけでなく、例えば八日市場の「ふれあいパーク」のような農村拠点ターミナルのようなものの可能性はないか。

→事務局

現在、市内に9カ所、農家が集まって農産物の販売を行っている。こうした直売所の支援も行っているが、例えば農協の古い倉庫を借りて直売所を運営したり、ビニールハウスの中を活用して直売所をやったりしているところがあり、それらに支援を行っている。そうした施設を作るのであれば、直売所との連携も必要となる。今後の検討課題である。

E委員

最近、若い跡継ぎの方に積極的な方が多い。そういう方こそ IT を使い、生産・販売等をしていただきたい。工夫の余地はあると思う。

→事務局

「マルシェかしま」では、農産物加工所を使っており、生産したお米をおにぎりにしたり、米粉にしてシフォンケーキを作ったりしている。付加価値をつけて販売をしているというところで、一つの成功事例と考えている。

委員長

今までの議論を踏まえた全般的なご意見を伺う。

→I委員

「商工業」「観光」「農業」の3つの切り口に分かれているが、実際は、それぞれをマッチングしながら、全体でいろいろ進めていくことになろうかと思う。農業でなにか特産があれば、それを観光で広めて、地元の人達は商業で売っていく…というように関連していくものと思う。それを市として、こういう方向で進めていく、というようにしたほうがよいと思う。

E委員

中小企業支援に関する国・県の助成金等はたくさんメニューがある。中央会はものづくり補助金の事務局になっているので、どんどん利用いただきたい。我々のコンセプトは、「お金をかけず売り上げを上げていただく」こと。失敗してもお金をかけていないので、何度でもチャレンジできる。

観光について、佐倉市の観光資源で特徴的なのは城下町とお祭り。県で指定しているのが、「佐倉・江戸時代まつり」や「くさのねフェス」等。市外の方に来ていただき、いかにたくさんお金を落としていただけるかが一番重要であると思う。そのためには、いかにお金をかけないで、仕掛けを作っていくかというのを皆さんで考えていくこと。いろいろな街づくりを見てきたが、成功している事例では、その地域に中心人物がいる。商店街のリーダーを養成する講座も行われているので、商店街の方が参加して頂きたい。そういう方が、ゆくゆくはまちを支えていくのではないか。

次期ビジョンの期間は12年ということだが、数年で中小企業を支援する法律は改正されていくので、ビジョンも途中で見直しする必要があると思う。

委員長

本日委員からいただいた意見は、次期ビジョンに反映させてほしい。

4. その他(連絡事項等)

事務局から資料「■産業振興ビジョン策定スケジュール(予定)」に基づき説明。

閉 会